

TYPE OF INDUSTRY

情報通信研究機構

NICT 先端研究

85

アニメ「ドラえもん」に登場する「ひみつ道具」のひとつ「ほんやくコンニャク」。食べると、外国人とも自由に会話できるようになる。子どもの頃からの憧れだった。近年、訪日外客数は増え

スマホで「ほんやくコンニャク」 使える

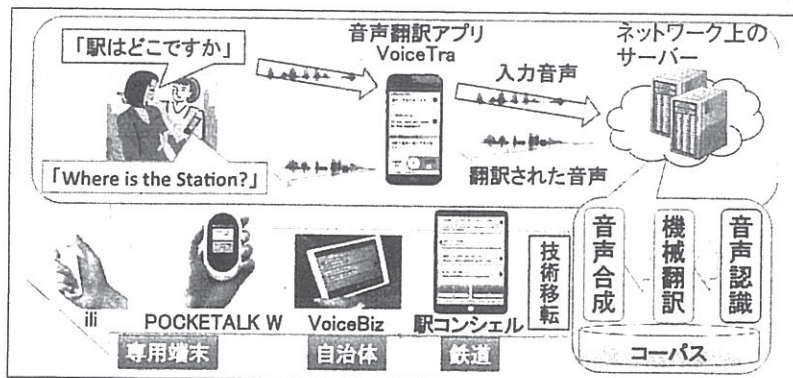
先進的音声翻訳研究開発
推進センター・企画室長

内元 清貴

96年京大院修了、同年郵政省通信総合研究所（現NICT）に入所。以来、自然言語処理、音声翻訳に係る研究開発・社会実証および研究成果の社会還元に従事。15年から現職。博士（情報学）。



科学技術・大学



言葉をデータベースから統計的に学習し処理する機械翻訳の精度はコーパスで送られ、サーバー内で音声認識、機械翻訳、音声合成の処理がなされた後、翻訳を絞り、VoiceTraの利用ログ情報も活用して効率良くコーパスを構築することに、高精度な音声翻訳を実現してきた。2020年に向け、旅行、医療の分野へと対応範囲を広げ、災害、夫し、よく使うフレーズを登録できる定型文を組み合わせることに、鉄道分野に適用し、NICTより、民間企業との連携も進められた。このように、使われるシーンに合わせて音声翻訳技術とベストミックスとなる機能を見つけていくことが重要である。VoiceTraの技術は全国の消防本部や交番、自治体などにも広がっている。

我々は、この技術をいつでもどこでも使えるようにすることにより、言葉で困らない社会を実現したい。

（火曜日に掲載）

続けており「言葉の術を実装し、誰でも手対応している。壁」がますます深刻に軽に試せるよう公開し、スマートフォンから入力された音声は、自動的に学習し処理する機能を採用している。

情報通信研究機構アプリ「VoiceTra」は、民間企業と共にオールジャパン体制で「ほんやくコンニャク」の現代版とも言える多言語音声翻訳技術の研究開発と実証実験・社会実装を進めている。その技術では31言語間の翻訳に各処理は、いずれも、より、高精度な音声翻

（NICT）では、民間企業と共にオールジャパン体制で「ほんやくコンニャク」の現代版とも言える多言語音声翻訳技術の研究開発と実証実験・社会実装を進めている。その技術では31言語間の翻訳に各処理は、いずれも、より、高精度な音声翻